

おおくす



渋川小 HP の QR コードです



伝統を受け継ぎ伸びる子どもたち!

校長 水谷 茂樹



11月29日(金)、今年度の音楽発表会を開催することができました。地域の「庄中打はやし保存会」の方からご指導をいただき、低学年は桶太鼓、高学年は横笛を、音楽の授業等で練習してきました。



『打ちはやし』は、この地域に伝わる伝統的な文化で、古くからの歴史があり、1981年(昭和56年)に渋川小学校では全校で演奏したという記録があります。つまり、40年以上も地域の伝統を受け継いで演奏してきたことになり、渋川小学校にとって大切な伝統なのです。

今年も、1・6年、2・5年、3・4年のペア学年ごとで発表をしました。人数制限を少し緩和し、各家庭2名までの参観として、保護者の方にも直接演奏を聴いていただくことができました。



打ちはやしの演奏曲は3曲あり、毎年1曲ずつ3年一巡で演奏します。昨年度は「鳥居囃子(とりいばやし)」で、今年度は「時雨囃子(しぐればやし)」の年です。

最初に、保存会の皆様が「時雨囃子」を演奏してくださいました。子どもたちは、太鼓や横笛に合わせて体を揺らしたり、バチを打つまねをしたりしながら、ステキな演奏を聴いて楽しい気持ちを味わっていました。



次は、いよいよ子どもたちの演奏です。まず、「口笛」で「時雨囃子」を演奏しました。「口笛」といっても、口を尖らせて音を出す口笛とはちがいます。音の高さや曲の感じを仮名文字に置き換えた文字符のようなもので、「とひゃらちいいひりとろ・・・」などと音程に合わせて声に出して演奏します。子どもたちは、「口笛」をしっかりと覚えていて、それを基にして、低学年は桶太鼓で、高学年は横笛で演奏しました。どの学年も見事な「口笛」を披露し、打ちはやしの演奏もとても上手で褒めていただきました。

打ちはやしの演奏の後は、歌の合唱の披露です。最初は、全員で校歌を歌いました。とてもきれいな歌声で、これも渋川小学校の自慢できる伝統の一つです。その後、低学年が「元気 勇気 ちから」を振り付きで元気に歌い、高学年が「明日という日が」を美しい合唱で歌いあげました。どの学年も聴いている人が温かい気持ちになる心のもった合唱でした。



最後は、「群青(ぐんじょう)」の全員合唱です。東日本大震災で、離ればなれになった中学生と先生が作ったこの歌には、「昨日まで一緒にいた友達と会えない日が続くけど、群青の空の下、みんなの心と心をつないでいこう」という気持ちが、込められています。

朝歌の時間や音楽の授業等で練習を繰り返す中で、「一緒に時を過ごした友達との思い出を胸に、がんばって生きてまた会おう」という思いを一人一人が感じ、心に染みる合唱を創り上げることができました。この音楽発表会は、渋川小学校の子どもたちにとって宝物であり、いつまでも心に残る行事として、大切にしてほしいと思います。

学校施設で宿泊し、自主防災訓練に参加した子どもたち



11月10日(日)に、渋川校区自主防災訓練がありました。昨年度に引き続き、PTA お父さんの会が中心となり、学校施設が災害で避難所になった場合を想定した学校宿泊体験を自主防災訓練の前日から実施しました。渋川小学校の運動場にテントを張ったり、体育館やコンピュータ室でパーティション・段ボールベットを設置したりして、親子・地域の方の40人程が宿泊しました。夕食に災害時に備蓄されているカレーを食べた後、実際に被災地に行って支援をされた経験がある地域の方から、災害時の様子や普段から何を備蓄しておくとかいのかなどのお話を聞きました。子どもたちも真剣に聞いており、災害時の大変さや協力することの大切さなどを学んでいました。日中は暖かかったので寝始めは寒くはありませんでしたが、夜中から明け方にかけて冷え込み、避難所での生活の大変さを参加者は実感していました。翌日の自主防災訓練の中で、宿泊体験をしてわかったことや感じたことを参加した子どもたちが発表しました。今後、南海トラフ地震が起きることを想定し、このような体験をしたり、防災意識を高めて備えたりしておくことは大切なことであり、貴重な体験になりました。来年度も宿泊体験が実施された場合は、もっと多くの方に体験してほしいと思いました。



2学期も、様々な点でご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。3学期の始業式に、元気な子どもたちに会えるのを楽しみにしております。健康に気をつけて、ご家族でよい年末・年始をお迎えください。